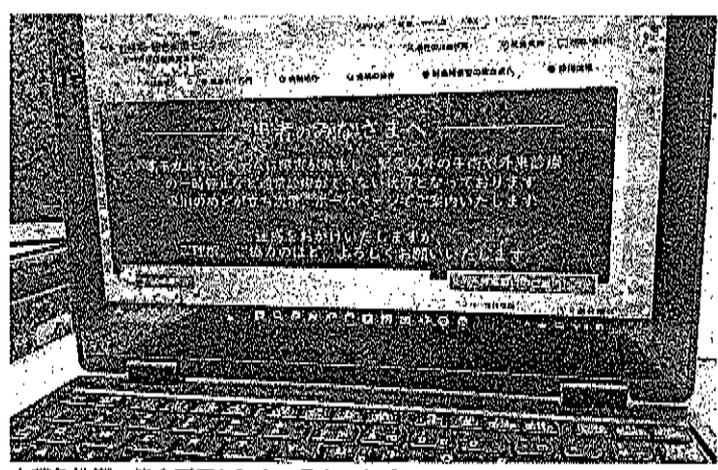


11/5 五福

# カルテ人質に恐喝

## 身代金ウイルスで診療まひ



大阪急性期・総合医療センターのホームページは外来診療などの一時停止を知らせている

患者のカルテ情報を人質に病院から身代金を脅し取るコンピュータウイルスに よって、大阪府立病院機構「大阪急性期・総合医療センター」（大阪市住吉区、8000床）では通常診療ができなくなっています。医療のIT（情報技術）化を厚 生労働省が推し進めるなか、セキュリティ対策が病院やクリニックの自己責任と されている実態がみえてきます。

### セキュリティは自己責任

「すべてのファイルが暗 号化された」復元のため にはビットコインを支払 えるという英産の脅威メッ セージ。電子カルテのシス テム障害が判明したのは10 月31日の早朝でした。4日 時限で、すでに予定してい た手術を再開したものの通 院診療のめどは立っていま せん。

同センターを襲ったのは 「ランサムウェア」という 身代金要求型ウイルスな だ。サイバーセキュリティ 企業のトレンドマイクロ社 の広報担当者は「感染する とパソコンやファイルが 暗号化されて使えなくな るウイルスで、金銭を脅 し取る手筋です」といいま

「二重の脅迫」も 「暗号化での脅迫に加 え、2019年7月からロ ンピューター内部を探索し ていくことで情報を盗み取り、 外部に公開されたらさら に身代金を払え」とさらに脅 す「二重の脅迫」が起すこ とです。

同社が今年1月から8月 末までに検出した感染件数 は8873件といます。 昨年10月には徳島県つる ぎ町の町立平田病院がラン サムウェアに感染し、機能 回復まで2カ月近くかかる など、各地で被害が報告さ れています。

トレンドマイクロ社は 「感染が公認されているも のは氷山の一角。医療機関 に多いというデータはな い。ハッカー側が攻撃しや すい脆弱（ぜいじゃく）な システムを探していった りしたまま手続したとた らうところはないかと推 察します。 厚生労働省は「医療情報 システムの安全管理に関す

るガイドライン」を出し て、医療機関に対策を呼び かけています。

公的補助をの声 他方、日本病院会などで 行うため日本病院会では 今年3月に厚生労働省に累 次提言。「医療は他産業の ように情報を価値物格等に 振替えることができません。 診療報酬に集った医療費を 行わせるを得ないため、サ イバーセキュリティ対策 への支援を自治体が行い続け ることには困難」と公的補助 を求めています。

内閣府は「サイバーセキュリ ティ」を推進す る吉田厚労相（東京保険医 協会副会長）は「この2年 で、医療機関の被害が17件 あったと聞くが、もっと多 いだろう。サイバーセキュ リティの専門家を置く大 企業ですら、被害にあつてこ とを言えば、それほど手 間や金をかけられない医療 機関は脆弱だろう」とい います。

「セキュリティを各病 院の自己責任にしておきな がら、厚生省がマイナンバー カードを保険証がわりに 使うオンライン診療を推進す る現場に急がせ、準備不十分 なまま導入させている。ま ずは情報の漏れを守り、安 定して診療を担保するため にも厚生省はオンラインで の情報共有を阻害すべき だ」